

## 病虫害発生予察注意報第 4 号

佐賀県

作物名：大豆、野菜類、花き類  
病虫害名：ハスモンヨトウ



### 1. 注意報の内容

発生地域：県内全域  
発生量：平年より多い

### 2. 注意報発令の根拠

#### 1) 定期調査における圃場での発生状況

大豆における調査(9月17~19日、県内22圃場)では、幼虫の発生株率は13.1%(平年4.6%、前年4.2%)であり、平年より多い(図1)。また、若齢幼虫の食害による白変葉(図3、4)の発生株率は2.4%(平年0.9%、前年4.0%)であり、平年よりやや多い。

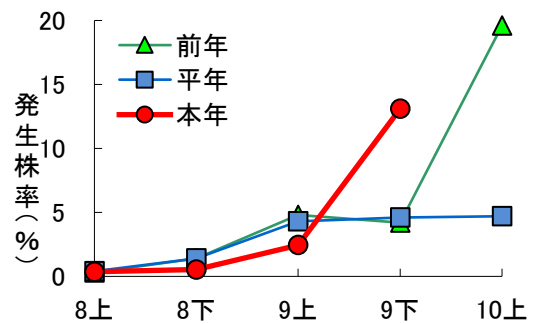


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

#### 2) トラップにおける誘殺状況

県内8地点に設置したフェロモントラップでの雄成虫の誘殺数は、9月3半旬に急増し、過去10年で最も多い(図2)。

#### 3) 気象要因

九州北部地方の1か月予報(福岡管区气象台9月19日発表)では、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の発生に好適な条件となっている。

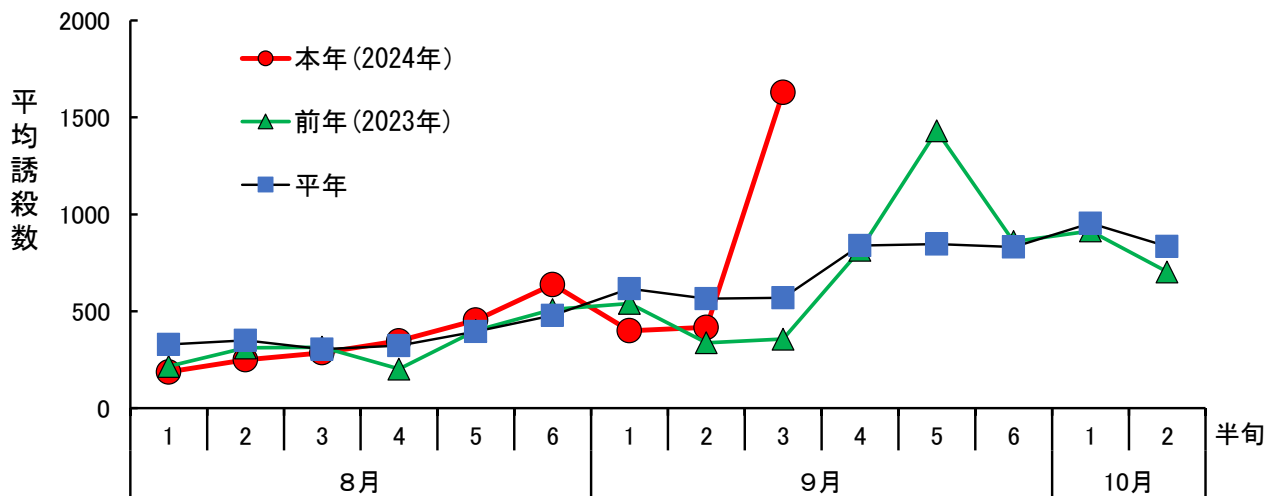


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数  
(農業共済組合、農業試験研究センター調査による県内8地点の平均誘殺数)

### 3. 防除上注意すべき事項

- 1) 薬剤防除履歴の違い等により、圃場ごとの発生状況が大きく異なる。圃場を確認し、新たに白変葉や幼虫の発生を認めた場合は早急に防除を行う（図3、4）。
- 2) 幼虫の齢が進むと薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫期に防除を行う。
- 3) 幼虫は日中に物かげに隠れ、夜間に活動する習性があるため、薬剤散布は夕方に行う。
- 4) 薬剤防除にあたっては、登録内容（希釈倍数、収穫前日数等）を遵守し、かけむらがないよう散布する。なお、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統を連用しない。
- 5) 圃場周辺の雑草は増殖源となるため、除草を徹底する。
- 6) 施設栽培の野菜・花き類では、開口部に防虫ネット（4ミリ目以下）を設置して成虫の圃場内への侵入を防ぐ。
- 7) 今後の発生状況は当センターが発表する各種情報及びホームページを参考にし、防除対策の詳細は「佐賀県総合防除計画（佐賀県病害虫防除のてびき）」を参照する。



図3 卵塊からふ化したハスモンヨトウ若齢幼虫  
(令和6年8月22日撮影)



図4 若齢幼虫の食害による大豆葉の白化。通称「白変葉」  
(令和6年8月22日撮影)

○佐賀県総合防除計画（病害虫防除のてびき）

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html>



連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085

Mail [nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp](mailto:nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp)

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

